

わたなべ秀一ってどんなひと？

Watanabe Hidekazu



守谷市商工会 がぶりメンチ事業部 部長

▷守谷市のイベントでお馴染みの**がぶりメンチ**。2011年、当時流行していたB級グルメでまちおこしを目的に**守谷将門がぶりメンチ**をプロデュースしました。現在は、いつでも購入できる店舗での展開を検討しています。



夢は守谷の子どもたちのソウルフード！

ITC守谷代表 (女性の働き方 改革)

▷守谷市の女性が**子育てや介護をしながら**生涯働ける、魅力あるまちにしたという思いで2019年2月に立ち上げました。職住近接の環境で、スキルを活かせる場を創り、地域の人財活用、雇用促進を支援します。



2019年11月 駅前に ITC守谷 をオープン

一般社団法人P-players運営メンバー

▷『住みよいまち』から『自ら暮らしを楽しむまち』へをコンセプトに、2016年に発足しました。公園などの公共空間で**誰でもPARK**、イオンタウン守谷で**and PARK Moriya**を開催しています。



明治神宮・栄町公園での**夕涼みPARK**の様子

▷その他、守谷ライオンズクラブでは青少年育成委員会に所属し、**守谷市近隣中学校バレーボール大会**や小中学生を対象とした**守谷イングリッシュフォーラム**を開催するなどの地域

活動を行っています。また、**守谷市第二消防団**の団員として火災時の消火活動や地域の防災訓練のお手伝い、お祭りの警備など地域を守る活動もしております。

私たちは、わたなべ秀一を応援しています！

☑ 自信のない私の背中を押してくれました。

市内在住 障害者福祉事業所 勤務 (30歳・男性) より

私と渡辺議員の出会いは3年前でした。障害者福祉事業所の利用をしていた私は渡辺議員の経営していたガソリンスタンドで1年半、実習をさせて頂きました。

幼い頃から家庭環境が悪かった私は非行に走ってしまいました。そんな私でしたが通っていた福祉事業所の職員になりたいという夢がありました。

自信のない私に渡辺議員は「やりたいことなんだから出来るまでやって来い、ダメだったら戻ってくればいい」と背中を押してくれ、色んな葛藤はありましたが、利用者から晴れて職員になる夢が叶いました。

守谷市には私の他にも苦しい幼少期を過ごしてきた精神障害を持つ方が沢山いるかと思えます。

渡辺議員のように**一緒に笑ってくれて苦しいときは寄り添ってくれ、一歩踏み出す勇気をくれる議員さん**が必要だと私は思います。

☑ 間違いを恐れず意見を言えるようになりました。

市内在住 大学生 教育学部 (21歳・女性) より

大学1年の春休みに挑戦したソーシャルインターンシップが、秀一議員との出会いでした。

「将来のために、視野を広げたい」という参加動機で始めたインターンシップでしたが、当時私は政治についての知識も関心もほとんどありませんでした。

そんな私に、秀一議員は色々なお話をしてくださったり、議会だけではなく視察や職場の見学をさせてくださったり... 2か月間たっぷり、幅広い分野で勉強する機会を与えてくださいました。

今まで将来の夢以外のことについて知る機会も作らなかった私にとって、毎回の活動はすごく刺激になりました。また、毎回の活動終了時に、私の考えや感じたことを聞いてくださいました。的外れなことを言うときもありましたが、秀一議員が笑って優しく教えてくださるので間違えることを恐れず勉強できました。

秀一議員に出会えなかったら、政治はおろか、幅広い分野への興味や関心さえ持てなかったと思います。

明るく気さくで、私たち学生の声にも耳を傾けてくださる秀一議員と出会い、さらに守谷のことを好きになりました。

48歳



わたなべ秀一

ひでかず

これから
住み続けたい
まち、もりや

ビジョン

VISION

持続可能なまちづくり

これまで、多くの市民と対話してきたなかで、意外にも多かったのは「このままの守谷がいい」という意見でした。「このまま」について、詳しく聞いてみると、多くの方は人口と自然のバランスをあげます。それは、私も全く同意見です。

私が理想的であると思う守谷市は、おおむね7万人程度の人口と自然のバランスです。ちょうど7万人に達しようとしている今、これ以上の宅地の大規模開発で、守谷の資産である緑を失いたくありません。また近年、つくばエクスプレスも混雑化しており快適さが失われています。これ以上の混雑化は望みません。

しかし、「このまま」の守谷市では、いずれは高齢化が進み生産年齢人口の減少により税収が減少し財政が圧迫されます。何らかの対策が必要です。ただ、私はこれまでのような宅地の大規模開発に投資し、人口増加をはかることには賛成しません。なぜなら、それは自然を失いますので、現市民の皆さんが体感している「このままがいい」の素になっている人口と自然のバランスが崩れ、守谷市の魅力、資産価値が低下する可能性があるからです。

私は、それより既にインフラが整備された地域の空き家の有効活用を提案、生産年齢人口の維持に努めていく対策こそ、必要であると考えます。守谷市が高く評価される要因の一つは、ご存知のとおり首都圏へのアクセス、利便性です。現在、空き家が多くなっているエリアでも守谷駅まで快適に行き来できる仕組みがあれば、空き家率の改善が期待できると思います。また、そこに暮らしたいと思うサービスを備えることで、活性化が期待できると思います。

これから4年間の行動指針

若い世代が、移り住みたいと思えるような「エリアリノベーション」と、守谷駅までの交通アクセスの強化の実現に向けたアクションが必要であると考えます。

この実現により、若い世代の定住人口が増え、高齢化率の抑止と生産年齢人口が安定します。それは、これまで行ってきた守谷市の子育て・教育・福祉などの行政サービスの持続化に繋がります。

わたしは、これから4年間で『**これからも住み続けたいまち、もりや**』を創る、アクションに取り組んでまいります。

有限会社 渡辺商店 代表取締役	学歴	守谷町立 黒内小学校 卒業	千葉商科大学 経営学科 卒業	趣味	食べ歩き、弾丸旅行 ハンター (狩獣)
ITC守谷 代表		守谷町立 守谷中学校 卒業	明治大学専門職大学院 ガバナンス研究科 修了		
昭和47年1月8日 母・妻・娘・妹		茨城県立 守谷高等学校 卒業			